



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月10日

上場取引所 東

上場会社名 福留ハム株式会社

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理支援部長

(氏名) 明石 嘉典

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 平成27年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	7,056	2.2	143	—	170	—	111	—
27年3月期第1四半期	6,906	△0.7	10	△58.7	△10	—	△28	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 361百万円 (248.2%) 27年3月期第1四半期 103百万円 (211.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	6.65	—
27年3月期第1四半期	△1.71	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	17,627	6,285	35.7
27年3月期	17,016	5,973	35.1

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 6,285百万円 27年3月期 5,973百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	3.00	3.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年 3月期の連結業績予想(平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	14,300	1.6	190	53.8	200	104.8	110	271.0	6.47
通期	29,000	1.9	400	6.7	420	18.7	220	6.7	12.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期1Q	17,000,000 株	27年3月期	17,000,000 株
28年3月期1Q	307,731 株	27年3月期	307,431 株
28年3月期1Q	16,692,494 株	27年3月期1Q	16,695,948 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビューの手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目及びその他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に、企業収益の改善や株式市場の上昇、雇用情勢の改善など、景気は緩やかな回復基調がみられました。一方で、消費増税後の個人消費の弱さが残るとともに円安による輸入原材料価格の高騰、海外経済の下振れリスクなどの懸念材料もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、円安傾向の定着や新興国の需要増加などにより、主原料、包装資材及び燃料の高騰から製造コスト等が上昇し、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年に向けて経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続して行ってまいりました。

販売に関しましては、ロングセラー商品の「サクラ咲く花ソーセージ」に「くまモン」をパッケージに使用した「くまモンの花ソーセージ」・広島東洋カープのロゴを使用した「カープ花ソーセージ」を加え、「ロマンティック街道」シリーズ、「広島港町ハム工房」シリーズ及び「宮島・弥山(みせん)ギフト」など、さらなる販売強化を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、70億56百万円(前年同四半期比2.2%増)となりました。利益につきましては、営業利益は1億43百万円(前年同四半期は営業利益10百万円)、経常利益は1億70百万円(前年同四半期は経常損失10百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億11百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失28百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 加工食品事業

加工食品事業につきましては、主原料、包装資材及び燃料の高騰による製造コストの上昇及び消費者の節約志向は引き続き強く推移しているなか、「ポークボロニアステーキ」や「くまモン」をパッケージに使用した「くまモンのウインナー」等のソーセージが引き続き好調に推移し、全体の落ち込みをカバーいたしました。

その結果、売上高は32億55百万円(前年同四半期比1.9%増)、セグメント利益(営業利益)は1億81百万円(前年同四半期比74.5%増)となりました。

#### 食肉事業

食肉事業につきましては、適正価格の確保に努め、国産豚肉におきまして、輸入豚肉の潤沢な供給による相場の安定により収益は改善しましたが、売上高及び販売数量とも前年を下回って推移いたしました。一方、国産牛肉におきましては、消費低迷から回復基調となり、価格の高騰により売上高は微増で推移いたしました。輸入ミートにおきましては、輸入豚肉の売上拡大で輸入牛肉の減少をカバーいたしました。

その結果、売上高は38億1百万円(前年同四半期比2.4%増)、セグメント利益(営業利益)は90百万円(前年同四半期比119.9%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億11百万円増加の176億27百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3億43百万円増加の75億56百万円となりました。主な要因は、商品及び製品1億88百万円、現金及び預金73百万円及び受取手形及び売掛金62百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億67百万円増加の100億70百万円となりました。主な要因は、投資有価証券3億59百万円の増加及び繰延税金資産1億8百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億99百万円増加の113億41百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ3億39百万円増加の83億85百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金4億6百万円の増加及び賞与引当金1億2百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ40百万円減少の29億56百万円となりました。主な要因は、長期借入金50百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億11百万円増加の62億85百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金2億45百万円及び利益剰余金60百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成27年5月12日に公表いたしました業績予想の変更はしていません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,865	2,939
受取手形及び売掛金	2,805	2,868
商品及び製品	947	1,136
仕掛品	42	56
原材料及び貯蔵品	440	398
繰延税金資産	81	119
その他	35	39
貸倒引当金	△5	△1
流動資産合計	7,212	7,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,018	2,008
機械装置及び運搬具（純額）	470	512
土地	3,344	3,344
リース資産（純額）	365	362
その他	48	45
有形固定資産合計	6,247	6,274
無形固定資産		
電話加入権	21	21
その他	106	99
無形固定資産合計	127	120
投資その他の資産		
投資有価証券	2,584	2,943
出資金	42	42
敷金及び保証金	107	107
保険積立金	34	34
繰延税金資産	628	520
その他	203	198
貸倒引当金	△172	△170
投資その他の資産合計	3,428	3,675
固定資産合計	9,803	10,070
資産合計	17,016	17,627

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,208	2,615
短期借入金	4,657	4,600
リース債務	114	110
未払金	660	705
未払費用	88	91
未払法人税等	65	110
賞与引当金	201	98
その他	50	53
流動負債合計	8,045	8,385
固定負債		
長期借入金	454	403
リース債務	255	254
役員退職慰労引当金	281	285
退職給付に係る負債	1,969	1,975
その他	36	36
固定負債合計	2,996	2,956
負債合計	11,042	11,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,044	1,105
自己株式	△77	△77
株主資本合計	5,162	5,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	969	1,214
退職給付に係る調整累計額	△158	△153
その他の包括利益累計額合計	811	1,061
非支配株主持分	0	0
純資産合計	5,973	6,285
負債純資産合計	17,016	17,627

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	6,906	7,056
売上原価	5,675	5,728
売上総利益	1,231	1,328
販売費及び一般管理費	1,221	1,184
営業利益	10	143
営業外収益		
受取利息及び配当金	15	18
不動産賃貸料	13	13
その他	10	16
営業外収益合計	39	49
営業外費用		
支払利息	22	21
貸倒引当金繰入額	37	-
その他	-	1
営業外費用合計	60	22
経常利益又は経常損失(△)	△10	170
特別利益		
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
有形固定資産除却損	-	0
有形固定資産売却損	7	-
特別損失合計	7	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△17	170
法人税、住民税及び事業税	52	101
法人税等調整額	△40	△41
法人税等合計	11	59
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29	111
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支 配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半期純損失(△)	△28	111



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29	111
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	116	245
退職給付に係る調整額	16	5
その他の包括利益合計	133	250
四半期包括利益	103	361
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	104	361
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,195	3,710	6,906
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,195	3,710	6,906
セグメント利益	104	41	145

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	145
全社費用(注)	△135
四半期連結損益計算書の営業利益	10

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,255	3,801	7,056
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,255	3,801	7,056
セグメント利益	181	90	272

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	272
全社費用(注)	△128
四半期連結損益計算書の営業利益	143

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。